

領域探査
デザイン
と古びる

お花見
支援！

三河島 水再生センター で花見。

ポンプ 330本の桜と国の重要文化財「唧筒場施設」を観る。 桜と施設見学会

2010.03.26 (fri) - 03.28 (sun) 10:00-15:30 (15:00)
26日はイベント・ビデオ上映あり / 27-28日は外観と桜観賞可。
[主催] 東京都下水道局 三河島水再生センター 03-3802-7991

保存建築物は一種の制約付物件に他ならない。建物公開は、その価値故の拒絶と同じ引力で、人をその場へ駆り立てる。ここは日本最初の近代下水処理施設、旧三河島汚水処分場。国の重要文化財の指定を受け、耐震補強を完了したところ。文化財が佇む盆地状の芝庭の淵を、ぐるりと囲む満開の桜。今年の春は、26日が1日限りのポンプ室と桜の同時公開日。そこで領域探査デザインでは、桜観賞の場を求めてやって来る人々がどんな花見を試すのか、そっと観察してみることとした。要するに「場に対する願望のリポート宣言」だ。※なお、この頁は取材用企画書です。(企画者/新藤)

施設公開条件等

「桜と施設見学会」は申込不要。雨天決行。ポンプ室のみ内部見学可。商業撮影不可。地下構造物非公開。来場者予想5000人。

歴史 江戸から明治へと都市化して人口が密集する東京を襲ったコレラ。東京市は技師米元晋一を中心に下水道事業に着手、賛否両論の誘致活動を経て、隅田川中流に位置する現地で処理施設の運転を開始。1922年(大正11)から1999年(平成11)まで77年間稼動して、台東区や文京区等の下水処理を担った。一度は老朽化で閉鎖されたが、歴史的価値が認められて都が保存を決定、2007年には下水道施設として初めて国の重要文化財に指定された。

撮影企画

都電荒川線で行く、桜と赤煉瓦の産業遺構公開日。観察：文化財のその庭で、花見の人は何を？

コンセプト

価値 阻水扉室・濾格機室・沈砂池・量水器室・ポンプ室等、一連の工程を担う構造物群が旧態を保持しており、構成を知る資料として評価が高い。ポンプ室の外観は、左右対称の両翼と垂直と水平の単純で規則的な構成美を呈する「セセッション様式」。構造は関東大震災以前の鉄骨・鉄筋コンクリート造の希少な大空間であり、屋根を支えるのは露出した変形キングポストトラス。屋内には10台のポンプ(荏原製作所製)と、建設当初の揚水機が残されている。
[参考/東京都下水道局HP/パンフレット他] 2010.03.05-17 現地取材

© Ryouikitansa Design 2010.03.05-17

物件データ

旧三河島汚水処分場唧筒場施設 [国・重要文化財] <http://www.gesui.metro.tokyo.jp/oshi/infno0351.htm>

企画概要

所在地：東京都荒川区荒川8-25-1
三河島水再生センター
竣工：1921年(大正10)翌年運転開始
閉鎖：1999年(平成11)
様式：セセッション
規模：地上施設 延床面積1400㎡
構造：S・RC造、母屋平屋建、両翼一部3階建
外壁煉瓦タイル、寄棟造、スレート葺
用途：下水処理施設
交通：千代田・京成線「町屋」13分
都電荒川線「荒川二丁目」5分



領域探査 デザイン

中古スケルトン賃貸普及プロジェクト®

企画/領域探査デザイン www.ryouikitansa.com
目黒区目黒2-11-14 大鳥ビル53号
tel/fax 03-6662-5350
shindo@ryouikitansa.com

2010.03.18